鶴

塵世を捨て人の物の空。こゝろ
何ぞ思ひ乱れん。さて諸国一巡の
俗ぬけて来。我は程なく三熊の理に一七日
茶菓中て来。ゆゑより西国俗
りと志賀の松原に帰り給の跡
乃湖越えて。
狩り来い
つゝある俗の表をうちぬけて。
松原尺くに表里の美俗の江
や難波うく。芦や乃里に美濃の
〳〵急ぎ移ふ。あゝ屋乃里に

美て其。日乃光色て其樣み。春を
之海らきやと思ひ出て[illegible]浮沈む。
庭乃波乃うつゝ乃毋上さら捨て絶
ぬ。古へを[illegible]思ひもつへき。[illegible]
あき[illegible]上ふしまき中ゝ拾も京古の
うら波乃。遠乃浮ひよる者を見
きき。舟乃うちゝ有ゝら。乗人
新もまたらゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
者中ゝ[illegible]ふしまき者て[illegible]
形ゝいゝる人やらん。本うう
世乃中も埋ゝ乃。人ゝきぬ乃と思

召て。不審ゝあきせゝゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝる舟人乃。よるゝ来ゝ[illegible]
つる乃。乃美ゝ少しもなゝゝ[illegible]
我も不審を中ゝ[illegible]世里人ゝ
芦乃屋乃。灘乃塩やく[illegible]の。
たゝゝを何て[illegible]
やく何ゝ乃たゝゝ[illegible]業をゝ
形ていゝゝ有ゝふよるよる
来るゝ不審ゝ[illegible]ゝ[illegible]
有るをゝゝゝゝゝ謂乃。ゝき

歌ども共の所の上隣の宿やきいとまを形ゝ。つ者の名をしるしまして書ふり是に対て我もうきみをいとやまあこの乃しほふきまして舟人を是にまて来ふり是をうつす舟

（うつくしの夢の所にてもて。
こゝに是なるのもらぬ女共の乃やふ一首接搖て置人乃。さらに関を問ひ
有らや搖人を。共を指れる
こゝ乃分ある。我を名のゝて搖ふ舟
法のもらをなのむまり（

何と是中世を知り人者と是を
なまいふ共。いとまるを名を名
の是共へして名ハ何をもりけゝ
中へまゝ。共ハ古へ名南乃琵乃
宇ふ。彩政乃矢共ふ乃つて方を
亡せ。彩と中物乃方ふて共。歌
をもゝて後是共へ歌をハ愁ふ
弟ひ共へ。共所乃有搖是物語
共へ以上抑も名南乃琵乃ふ生
法乃所是仏ふ乃法りゝ。主上新
ふ。ふ悩ふ是共 上 有為乃言

僧を僧可仰せて。大法を修さ
らまゝ捧げ。生徒を祭文ふるまゝ
ゆ悩ハ四の刻ゝまでかゝるに。
来ゝ家内ハ出ル方ゝ上ゝ。家ゝ一
ゝ方ゝ家ゝ。ゆ撥ハ上ゝ前ハ入ル
ゝ上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やすく上古の人もうらやまし。
こゝろ安かりしこゝろ。
きゝ交りて教へ給ふ。彼古經を讀
誦するはかなさを少くしるべし。
一佛成道の勸め世界。世界悉皆
成佛。上方諸菩薩。佛道
なり。
諸菩薩
如是
如是
如是

おのれもちまして彫改り矢さ
まにのうまを盲矢失せて。蔵
雷こと地ふなをまて。なちちに
感せしつる。男へ。彫改矢さ
まにり。男をつ対をなりくる
よくくりて男ひしまと。其
のちまに感者て。猫子まとふ
寸剣を。彫改ふくくを捨りるを
家倒力。大臣まにて。まちし
をおまくふ彫ふ孫ふまに
くまに。大臣家のへにて。

おをも和を并ふ揚るふて。伊与程
くまにまや。四下彫改。右の孫をつる
て左力袖をふつけ月をふ
多ふけて。弓弦月力。いふに
ち彫てと。一ふまりまに剣を絵ハ
まに。前をつ弦帰まに。彫改を
名を揚て我ふ。名を流ふ
国力。おしかられてまに力。
まにまりふまつ由くまに力。うと
乃も国しまにの孫ふ。浦半の
うまふ流まふつて。朽ちの

うつほ舟乃。月をもてはそらに
きよをて。夏まそそをこがるるやを
るに照せ山乃ハ乃。もゝゝ山照を。
山乃を抜月と芝。ア海月も乃
多ア海月と芝み乃ゝを

玉井

並数
縁起。玉地ゆゝ始まをしゝゝを神
古代地神四代ゆゝを。ゝゝ出ア多と
い我ゝを。抱もゝゝゝ片鱗陸当
乃釣針を。仮そ形ゝゝ海魚ア千
釣をなまに。釣針を魚ゝ取ゝ
まゝ奴。ゆ由を見ゝゝゝゝ中を芝。嗤ゝを
乃針(チ)をゝへをと宣ゝ宜。剣をゝゝ
針ゝ化アゝ人ゝとゝ人ゝゝ。拾ゝを
乃針をゝゝる。ゝ河ゝゝゝ海中ゝ乃。
彼釣針を探んと思ひ立て社上ゝ

[illegible]奴汝[illegible]の。翁の
[illegible]て。咽喉が鳴[illegible]
直る[illegible]
[illegible]。涙
[illegible]
[illegible]
[illegible]

しるかな。〳〵。今の屋敷の家の。
脇の方つゝの光る上枝をいつねて
居たまふ。郭多の〳〵玉の石の浦
辺アハ方の〳〵や〳〵。我玉
井の宮の方に居たまふ。生様の
者は性二人来て。玉の つゝを持
ちて居たまふ。詞をかん
じいて形まで。ぶるる本陰平家の
身をうしつてたゝかふとして人
方アたふ出の。玉の つゝを池
めんと。玉の井の立り屋をアれ

玉井 二

い。や。桂木の陰平人アたり。星
いるる人すむ。上忍ふまる
も形まで。淺アふ如き形の
形てたるたゝまる。いの形る
人たまつまたそ上 ゆたゝ川
うしや我姿の。アたるるも
我の。高く程の出てまる。
行たる強ふ高いから那アは。性人
の人アてまる。出の名をあ
おまつまを今て何をつて
むて。我をて孫地神代ぞ。

出でたるとき我子を抱き上げ、ひら平
くやをとかの神の。こ孫かの者を
目下。だいてまつるそ子まれる
いやはれそさそをしめり。で孫
の光陰まち。はてまをかの
悔幸を。そもいかの故やん
こ文を書いたり。我り幼計を
魚ふくれ。まるくまをとれ孫
来る。義をを何をとやん。上
ハくくをおしまをくしろ
しのまぬいたり。まを雑言

五井 三

こ文を言ふ日くこかの者を
かくしこ。二人かのかハくと豊
玉媛と我をきうかの玉依媛
里ハ孫ふまんくかのをして。
ものらの神かこんやる
ふ。をやうちとをてゆくしてかの神
みをあくくく大庶かの引をて
の沖中上を。
うちつけるやつをて生へる。
却て父母下ひををを。彼の
計をを好へ。ふん中ふく思ふ

まことへ　きちハ彩て伴ひ宮
中へ参アまへ　紐ゆ
ちくもとの乃神乃四孫。倉海の郡
ミ乃アるふる。ちくもとる。所
彩ふ　鉄　上　然まき雄き葉き
整頭　四上　ちくもやてアるき。ち乃
八重序を表。ちを請しへたてま
つアし　上　鉄毎乃神いつきらしつき
悠幸乃ちを。ちたアたまふ
我ちくもとの神乃計を。仮ちくもら
湾アり。角ふとくもてあまよう

五月　四

を。鉄まきふと　上　計ふ。所ちくもと
ちくもと角ふ。せうとをいあ
ちまくふ。猛きくもの乃いう那
らんと。法アまへちくもちくもの湾
ふあくおほしめき。先鈴計を乃
祝て志ふ久しく中へしく　上　拙
ちくもちくもいうと所ハ　四上　保
ちつ汐るち。ちくもの玉を芸ふ
たてまりアまきちくて。俗きて玉
ちくもちくもち。鉄ちくもの神乃。
外祖と成て豊媛もたく那ら奴

[illegible]の[illegible]の[illegible]自[illegible]三年を[illegible]三[illegible]を[illegible]形[illegible]如[illegible]。我[illegible]入[illegible]上[illegible]し。海路の[illegible]いら那らん[illegible]の[illegible]おく[illegible]を。滄海の宮主[illegible]伴して。海中の垂物[illegible]の[illegible]大鯨の垂[illegible]を吹[illegible]せ。陸地[illegible]おく[illegible]中[illegible]。[illegible]様[illegible]おく[illegible]世中人[illegible]

[illegible]考[illegible]る。[illegible]玉の[illegible]の[illegible]。[illegible]奴[illegible]彩。[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]玉を持[illegible]一[illegible]。豊[illegible]媛玉依二人の媛宮[illegible]銀[illegible]玉を[illegible]へ。[illegible]。[illegible]を待[illegible]滄海の宮主。持[illegible]を奏[illegible]。滄海の中女王[illegible]て。[illegible]の[illegible]。[illegible]の[illegible]の[illegible]珠を[illegible]。[illegible]中。[illegible]を奏[illegible]媛玉依[illegible]て。[illegible]

乃袖。〳〵。玉かづらむけし桂が
まゆにそ月も雲ゐにまがふかな
雪をめぐらし。袖をふり　下　滄
海の家玉動　四上　乃二　滄海の家玉浪
左離の雲みを引うまとりを杖下
きをと。左右みりへにたるも岩や
ふ引ゝ引ゝ少引ゝ〳〵と拍子を
ゝへて付つまゝ。岩ゝ屋
きゝゝ。うへとゝ袖ふきと
滄海の動物をたてまつらんと。
五丈の鮫ふのをたてまつりと。二人
五井　六

乃媛ふ玉をゝを。袖玉立ちる
ゝをゝ。うしほをたて
島ふ美とつたてまつと。ゝら
ふおくとりもたてまつりて。又袖
宮みゝりへとる

湛海

[illegible]ノ様ニ生ニテ[illegible]。二条堀川ニ居住
仕ル。鬼一法眼ト云フ我ノ子ノ相
ト故左ノ頭蓋骨ハ八男沙那王
頂ト中ス。京都ノ人ノ妻ノ為仕ル
ヘシ。いまだノ子細ヲ習ヒ。元ヲノ山討
て捨ノ中ニ捨ル。然ルニ生ニ生ヒ
捨ル。幸ヒ山ノ人ノ拾ヒ養ヒ
取テ去ル郭ノ湛海。彼ヲ
為量弟ノ子ノ為ニ養ヒ。彼ヲ
ノ[illegible]討ノ中ニ捨ル。いまだ達ノ[illegible]

法海

寺力持

前の世に沙弥小白川法海坊へ
参り。少し法をきゝ力を習。
出家して中道へ寺力持畏つて
いとまを内へ帰り中道〳〵達て渡
り寺力持鬼一法眼より力を授
て。中談の習。只今御
出家の力をつけ〳〵
て有。扨て案じ入るみて
寺力持いと中上に。法海力を出して
出力へて中を寺力持畏て。さう
〳〵直に切るの力みて

法海 一

に〳〵相見の何の為の法を
授て〳〵参れ。只今中力の事
力を教ふ所に。内〳〵中道〳〵。沙
那王撥寺の秘義の法力一巻
を授て取れ。彼を元
〳〵討て。者相をもうしなひ
中に参れ。達〳〵と中道。半ば
て沙那王を討へき行て覚
れ。相中力に〳〵と授習の
て取。相中力に〳〵と授習の
て取。中上に寺力持
力討取へし。さあ思ふ

ぬべ。かたち猛威を振ふせ。やはり
打捨るるかぬべき。諸なのも
しきるるみてれ。ちらハ沙那五
をはらしせし。五条方を弁へ
つらハしぬべし。ぬかを語ちり
ぬ思ふかて。何れて討てまりを
ぬべ。と実ぬへを名も角も。行
附もいをき中へし。ちらあくをを
せ。四上
〈ちらよ鬼ぬをとを。
俊小冠者を打ハ。中後ぬ見ふるる
ま。ぬ取ふをんと為をし。雲数
法師二

を刻て法師をへるんをおを法
ハ〈ぬをを
ぬき〈子セイ上中へ抑も沙那五
を法師ハ作ふ法ハて。五条方を
弁へ寄らんと里夕鳥方花の前
〈中
五条河ぬ方河ちやの
ぬ法ハとををれをれて。第ちめ
ハをしふをちて。新ちちハが
ぬ清き。五条方弁ふををハ法を
ンをを
〈待をハ。若しき物
ちほをまを。ちをハを法。嘆の空
ぬれハ法師ぬ夜の出ををを

金織かもら着て。白拍かち刀をさして。沙那王丸と名乗たる子
をさしもちて沙那王丸を。神前を拝し奉て。立うらんを
しるべ。海原を分て。いで沙那
王殿。我後のうへを力おぼつかなし。
。此ひと海海を立て。
ちをうけあくいれそ子
ら思ひよりしや。我身を海
海下を通ま。拍子鬼一ツ下

海海 三

知ぬ道なり。幸の討手ふかしよ。
いで海海。此形る立を通かなて。
我を討んと思ふ者やと。
しや立を通まても形し。
おさしかたくて形りまて。
接屋ぬ。
形る給。
里
。金勲や小冠者殿と形
ちんと踊て切て抑ふ。奉よ
て沙那王ちまて。
秘術をくまて形し

衣を。脱がせもせずに、をつ
り切りて切れたるは。海海も大きな刀
を。アノ手の事ッ早くてられたはアテ
と。遠目を切。まだ。なるまに海海
も。事子の少き力で切られ
ていまれ果てそうなる上拘
も。無念の涙中ッ。と。を
をうりつて。つまれまいしゃ。うて
ハ。ぬ。のはまを乗つてまもとも
と。をりて。押らへも。起上ア。
飛行自在ふ。我ひまも。ムをも。濃

海海　四

海勢力つまて。彩色。刀落れ。
りと。ぬんとも。ぶも。切。押しゃ。ひら
ふ。格。姿を。ひたよ。前を
首ら。落し。ふらいまて。半
ぬも。。。袖。へらせた
まひりと

墨波桜

[illegible]の桜を防ん。是も四郎の住へ中し。峰殿ゝ[illegible]果て共。深や吉野ゝ別を出し。比叡山ゝ通世とも。一人の限ゝ奴男ゝ乃色涼州山下分て。古塚乃岩ゝ報説ゝ。花をもとめて眺かゝて男ゝ共[illegible]。丹田乃黒ゝ是中ゝん乃一夜妙見乃中めゝ上乃下。男ゝ後ゝ引捨跡乃

まことに知る知る孫宗章の花は芳野の墓
ふるさとにて。為に経年。宗牧
美て世上我はまことに来てこれ
を。人跡絶るさいの春は。彩宗牧
乃花の色。誰と少なる事色
も那し。何とあく思ひて行て
世。宗之の聖へのまことしの所
は。世者を是墨を不き。世
うを結無不。宵し。枝ふ生て
ちりやて思ひ世しあふく所れた
る法僧上中へきるの世世方の

るて世の何るて世て世て今
乃詠哥の是をは。是まて歌
まを是世是上不思議ふ花を詠
む友と乃まを。まて那て。
今の詠歌の多雑を。いるる
人て。まし、そ世花あくは
いふて。る詠歌の中
まをへき。只今多の古の桜
の。宗牧の桜しの所ら
を。世者を是世て多不
咲と今は恨めしや。。

うき世の事の作樣。うき勢吹う奴
まも有へきなり。何ちまふかちと
ゝて。我はうき世樣衣。君ゝ為成
善和乃。桃まちら切髪かぶゝ
果奴よかの中樣ゝてなるもの
我樣ゝてなるもゝ 扨何故乃
世愛ゝて樣ゝ 是ゝ世ゝ諦寄
故樣よゝ そも諦寄ゆゝ
只ゝかゝ諦寄ゆ。ゆきちゝ
樣ゝ
樣ゝ。ゆ春ゝゝを引きかゝ
ゝて。ゆきよゝゝ諦ゝかゝ

墨染樣二

樣ゝ世ゝ世ゝかゝ。ゝ世ゝ奴達ゝ
ゝ樣ゝを書ゝて。ゝ花ゝを書柳
乃。服中ゝ。ゝ。ゝ
為墨。本乃宵乃月乃中ゝ
花ゝ世ゝ世ゝ

扨ハゆ花乃樣墨まて。我子詞を
ゝゝゝゝゝゝ。いまゝ成ゝ那ゝ
ゝ。ゝ世ゝ乃ゝ
ゝ。ゝ乃ゝの墨ゝ
く神ゝ島羽玉乃墨乃衣乃樣柳
ゝ。ゝ

法。〈上〉菊木堂為皆成佛
之事なれば、主因緣の妙
文、しるしなれば、我身も菊木堂
なれば、花の心も、是仏
聖人の墨染の桜。是なれば、
僧侶上人、上古桜を法華経
の生ずる法華経、是ふるして火
難の起れば、桜の花、
帝都を花法と号し。陽花屋
門。花の桜ふるを基本
こうして、これを主上は木下

命を絶ふ。是倒て、
利益と成を。彼を成也。
日蓮聖人花法。
日院の木。
花の新ふ間。初陽屋
影。悦をおハしまし。
て帰る所。
散る。人を仲木。
出ん。

花の衣ぬぎかへてはる雨の
やどりにたちよりぬめり
降雨。嵐の山もさそはれて
を置る仕樣。うき世の
書と。墨染衣の月の。
緣を頼り次て。菩提成佛の
少法そ嬉し。
海仲の聖人の樣し。
上人の
四月十八日
花の枝も風に
そ思ふ
墨染桜四

昨日
春ふかき花衣。墨染さくら樹
不殘
杉風

猫法師

ゝ様ふ共者ハ。河内国高安の里に。
左衛門尉通俊と申者ゝて共。扨
も高子を一人持て共を。さる人の
後妻とおもひて。長ふ思ひて共。
餘程ふ不便ゝ共ゝ思ひ。てゝもに
て一七日の程ゝを引共。今ゝ満ち
て共程ゝ。猫ゝ程ゝを中付引
ゝせゝ申て寄共ニ引出ス力ゝ。自を
ア[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

ふるまの下ふる。ふるる思ひを無
しふ。此月の梢の上ふる雲を
るうまいひけり。深やまふるけり
新作る。人百百屋の角と成て。
うま年月の流まてふいりせの
山の中に落る。よしの川のよ
やせも。おりひもてぬさく流
ク那。ほまし山や前世の後を
ういふん。ふる又人の後ふる
より。不孝のつふ流む史。おも
ふの流うまふる。百月ふ

新作話一

成ふ。生をもうへ奴世ふり。中
有の闇ふ。まふふ山ふ赤ふ
人の中ふ八多奴へし切や上作ふ雪
彼ての少羅の梢。晴
空ふの中まふみも。山の曙の曼陀
羅の光能ふくやくとして月
をてらしまひるるとやふ。
お世とひふ。ふふ名ふ上世
ちの。仏は家扶の中ちの不の
名ふ。美ふまやふ。ふふてふら
んいさふ星ふ。上世を如

自分心乃ゐ。諸可対。生死形る
身を見て仏の祈き生死乃場可、
梅りをふしてきゝめ申しくふ
者ゝ紀ち利益。法界無縁の大
慈心ゝ。ゝ心ゝをつゝして冥
衆ゝ。ゝ。や。ふ出ゝる乞
丐人。いゝ探例の諸法ふ
又秋ふ上名をつけて。梅諸法ゝ
と作者ゝや。ゝふもけ分ハ育自
乃。冥諸車乃ゝ者ゝゝ。ゝ
知き仏申けゝ諸法と名つけ

諸法ふ二

然ふ者ゝ環申ゝ者ゝ。ゝ。ゝ
るゝ乃業ゝ。情者申ゝふ中
ゝや。ゝ。梅りを法ゝ人
うけ者ゝを者ゝん。や、花乃者
乃ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
梅花ゝ。諸法ふ袖ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
乃ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

花の香ひ高き事ふかき方の花
を袖のうへに捨て。花もまふらう
捨りそよ〳〵中〳〵かるる竹木
五土悉皆の法も捨りあまるを
上ふる成仏の大益豊の上を
〳〵と捨りの塵にて。ほを河
もせ〳〵て袖をぬ詩者てや花をさ
べうくる捨りの色ふかく白
ひ来ふるを梅衣の。もろ〳〵やおに
波の寄りとる法あらぬ。ゆそんなるふ
を薬うふ。ちんの綱ふをそる

ゆ〳〵き浪花の海そなたの方をしきの
ふ秀や育急の方ほまらゆて。ゆるん
地もる梅くえの。花の中の中ふ
難波の法ふよも浅〳〵紅
佛日西天の空ふのくまの。二ゆるの生
世中〳〵もるの。三會の曉ふ中〳〵也
上然るふ中百ふおゆて。何とんを
乃もめゆ〳〵芝ふよりて上言
方子。玉ほを改め為民をおし〳〵
佛法流布の世をあして普く
法を弘めるふ〳〵則当方をゆ

まことに有りて初て僧侶の姿をあらはし。四方まことの名仏あらはれ給ふ。金堂の内の本尊は。如意輪の仏像。救世観音とも申とか。本尊の前生。西辰王の思惟なりて。度らせ給ふ由へ。出雲の仏像の直しつくる域ふりしるとか。仏法宇内の内の本尊とは。まことに威光の。諸あらはやまず世を直の内の拾ふ。然る山尊寺の仏つくの。出雲の彫も。赤梅檀の霊木にて。塔婆の内の宝殿に

いらるる。閻浮檀金彫るとかや。万代の。もめる亀井の水なれども。五濁の世を。無熱の池をうけ継て。流れ久しき世に。五濁の人百を導まして。富家の家の為を寄る那る。難波の古の墨の墨の。浦に彫まれて。印の移ちちしるしほの。刻てる法山も。ふる成仏の。なるなり。第彫るを内をいるる。考えておるして。まことに失ひ

なる所にて出いらふ。おのれの所
まとに育目と成て出。所ら不使
とおもふらへて出や。爲さ人見も
まとらの出へ去。拾ふ人さと名
乗。言あへつまて帰らりやと存出。
いふ弱法師。日ま觀の時節ふ
まさ急急と出へして言くは
恵觀の時節あるへし。育目
あまさ所ふとまと。上所にて
あるはふ出ん。東門を拝ふ南
無阿弥陀佛 ままや所の東門とも

いふ拾ふや、爰は西門の内の石よ
所ら西門やとまと所 西門を出て拾
ふ所。東門ふ出ふ、所ふとら
上ふ〳〵爰も難波の西門。西門
を出る所の石を拾ふ上 阿字門
ふ入て上阿字門を出る上所ふと
所ふ出ふ上拾ふ東門ふ出の
ふ難波の内の海 日 所の彼も。
葬とうやかり上 所ふ入り所や我
育目とふらまと上まと。弱法
所ふ出と所ふ懐書ふまと。

何ぞ[illegible]ものハ江戸。江戸にし
て松風吹。永機[illegible]何のあた所
ぞや上信越の。松の木百よ。[illegible]
まゝ月落る。海路島山と
ゝ[illegible]しゝ自然の[illegible]。[illegible]
ハりや落るらん。日照銀[illegible]ハ
[illegible]も波の。海路孤鳴。須[illegible]
[illegible]。[illegible]ゝ[illegible]。
満目青山ゝ。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]波の海の致
[illegible]

浪の。[illegible]
ゝ[illegible]を見て。[illegible]
[illegible]山や[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

まさ奴。いかなる人の果やらんそなた
名をなのれとなまへや。上にて思ひよらぬ
や法あまさま。我りゝへをとゝひまふ
宮あの里なる里に後世九の里なり
里にまさうなりやいさまさ父宮
あの通後よりそむ通後いまの
父の。まの方をまくまる。須打
まくまに向ままり。里おいかふ少て
後後ちゃア。和ふらまりりとて
行ら奴方へ参まいの。父様に付ま
を取て。何をなつむ義後古の達
福住清七

乃者も取孫まり。彼奴まを紀ふ
いさ能ふ宮あの里に帰アクイ
こ九ここ

苧麻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠ク至シ。二タ上山ノ豊嶽ニ南
ノ方ニ多ク美ノ至シ。一念
弘法佛ノ法儀無量無辺ニ説キ
給フ。八萬法蔵教門ヲ弘法
世ノ人ニ伝ヘ給フ。稱名ヲ唱
法ヲ聞キ一勝ノ人ノ為ニ
南無阿弥陀佛ト上ル。
佛ハ我ニ来ル。南無阿弥
佛ノ。彼ノ人ヲ涼シ
き給フ。如ク我ノ為ニ
ノ方ニ奴等カリ。

無ク世ノ法佛ノ方ニ
来て極世ノ少ク
中ノ方ニ。五つノ方ニ晴レ
奴。西ノ方ノ月ノ彩ヲ
奴ノ方ノ勢ヲ
ら。何
ノ世
上ル
法ヲ
ノ。
法よ

ありとしいせしるとて。第五種の法をもとゝ。ヤヲ拔まゝ出生の陰中にて。ヲンなを松の戸の。脇まで出てゝ。ゝゝまて法の場ゝ云ゝるゝとゝ法の場ゝ云ゝるゝとゝ法の場ゝ云ゝるゝとゝ

[illegible]佛[illegible]紀人のん。
ちさいて則ちこゝ一枝ちまゝ。又[illegible]
ふ[illegible]花樒。[illegible]の[illegible]ふり
つゝ。[illegible]放ける宝樹と[illegible]。
[illegible]
葉の[illegible]てとゞけてかゝし
樒ぶの。花もんの方放ふ葉の
[illegible]咲より[illegible]中〳〵成へし
本よりも。[illegible]末[illegible]成佛の[illegible]香
ふ[illegible]る花ん　〳〵法の[illegible]
種〳〵[illegible]冨[illegible]ふ[illegible]奴葉の

[illegible]を〳〵[illegible]清め〳〵人心の
[illegible]ひを[illegible]や　〳〵[illegible]
[illegible]

〳〵花の姿の[illegible]て如[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]る雪も孫も
[illegible]も。[illegible]の[illegible]もんや。
[illegible]吹〳〵秋の風[illegible]ん〳〵[illegible]
[illegible]の[illegible]姿[illegible]
四十七代の帝。[illegible]帝[illegible]の[illegible]
[illegible]よ。樒[illegible]の[illegible]大[illegible]成[illegible]
一人[illegible]

は山の花のひとへに移り変る程
毎日読誦しまゐらせ。仏の御
名をとなへ奉りくれば西方から
来迎あり。我が御身をおくし
まゐらせつゝ私の観念しまゐ
らせ。やがて臨終を取るべし
はは仲尾を出しまゐらせつゝ。
念仏三時の宝号の声
は山陰の。松風に響きて。
まぼろしの夏をうばはれぬ。音絶
えぬ耳をたゝせ給へ。南無
阿弥陀仏

観念の床の上。聖禅園月の
宴の間。寂しくも。松風の人の
声。尼の勤行を妨げ。
いつもの人やんと。乃ぎをのひも
とき。尼は笑て宣ひ。
松ぞ。
上様を呼ぶ。侍女
山伏。
仏を唱へ
物を

[illegible]

宣しく援護を加へ給はば成就し難し。

先方にて如案。「[illegible]」に付き帰途の

よし。感涙肝に銘じつゝ帰途の

途中を。後にまたあとより[illegible]

やがて物語。則ち[illegible]

表に男[illegible]

ひしに二月中旬なれども。然も時節の

[illegible]中なれば。[illegible]を[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひとるるやうに。はるつて。仏心を
いしく。まてまくをるべし。
以上ひもあへ。孫八音楽乃。〳〵妙音
ゆえ。ゆるるべし。哥舞乃菩薩
もゆ乃ひ。ひとるるべ。ましよ
〳〵上峰乃夢中み
ゑまるるハ。ゆゑ姫乃精魂なり。
我ゆゑ。ゆるるべし。時稀濃浄土経
観音おはしまして。仏心空なり
し故みよ。こめう。あ楽世界乃前
まつり。本覚寺乃園自ゆ歴を
第ア伝

ゆる。然ませ。爰を去る遠
して。ゆる乃故未乃法味なり
ゆるるべ。ゆ。者空男乃荘厳眼
耳路可迷ひし。孫妙法乃音
ゑ。まくほうきつ乃耳ふてり
情ゑなる嘆乃ふして空ふ涼し
きゆるふ。ゆるる少ゆ乃未曾惜
むへ中ふ〳〵時ゆ人もゆ
る物を。則乃爰を嘆ふの浄土
経。いしまゆ則まや。〳〵撫耳
不捨。ゆ者面世界。説け難ふ

明治廿一年四月十二日　印刷
同　年四月十九日　發行
同四十三年六月一日　別製本御届

東京市麹町區下二番町
訂正者　金剛鈴之助

京都市室町通四条上ル
訂正者　金剛直喜

京都市上京區二条通麩屋町北東角十二番戸
發行兼印刷者　檜常之助
（特電二千百九十番）

256
205

特57
556

256
205